

Ⅱ 暮らしの向上

6 文化の振興

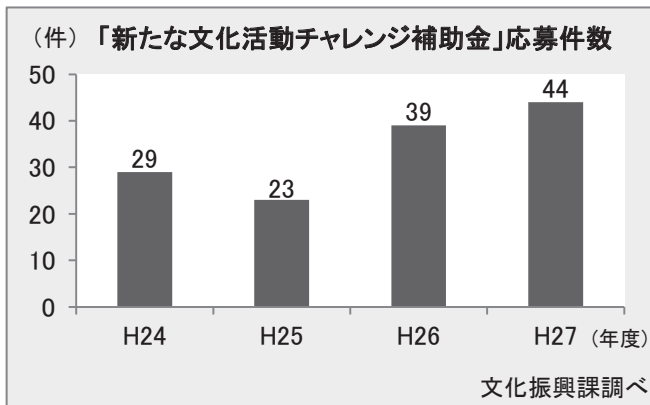
目指す姿

奈良の歴史文化の魅力や背景を分かりやすく伝えることや質の高い文化芸術イベントを実施することにより、文化力を高めるとともに、文化芸術への参加、鑑賞の機会を拡大し、活動の裾野拡大を図ります。また、文化資源を活用したにぎわいづくりによる地域活性化を進めます。

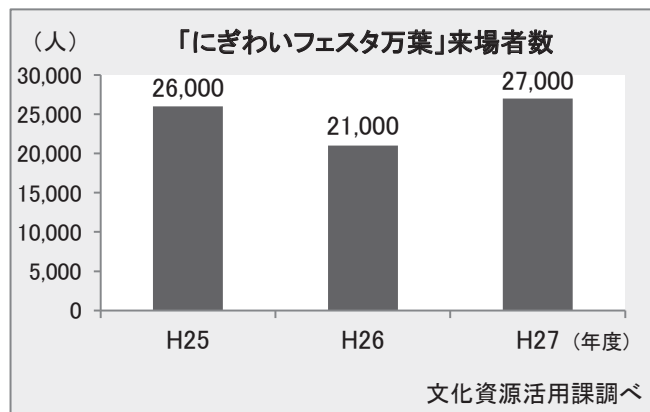
主担当部局(長)名
地域振興部長 村田 崇

関係部局(長)名: 南部東部振興監 山本 尚、観光局長 辻本 浩司、くらし創造部長 中 幸司、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉田 育弘

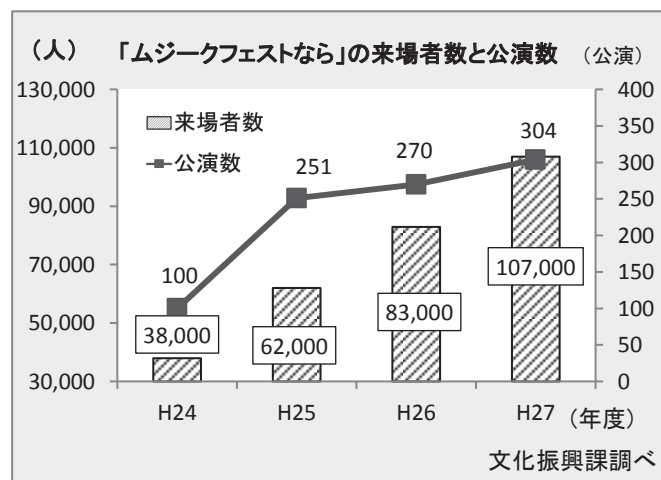
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	平成28年度までに「芸術・文化」を行う県民の割合を全国1位にします。(H23年度:2位)
取組	「新たな文化活動チャレンジ補助金事業」を実施しました。
成果	平成23年度より県内の文化芸術団体の優れた取組に対して補助を実施し、同事業が徐々に浸透したことにより、平成27年度は、応募団体数が44団体と平成26年度に比べ増加しました。

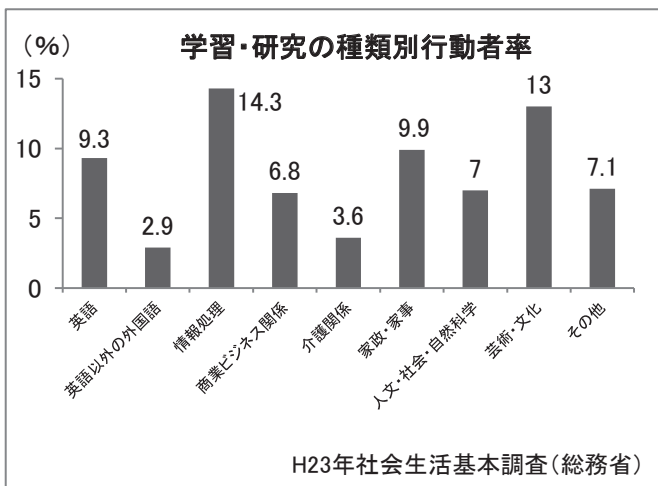


目標	文化資源を活用し、県内各地域のにぎわいを創ります。
取組	県立美術館展覧会事業、県立万葉文化館展覧会開催事業を実施しました。
成果	美術館では特別展をはじめとする展覧会に約71,000人が来場、万葉文化館では季節ごとに開催される「にぎわいフェスタ万葉」に約27,000人が来場し、地域のにぎわいを創出しました。

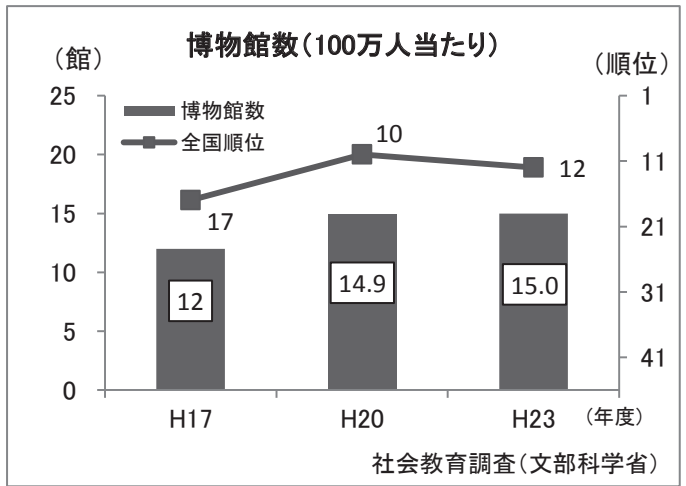


目標	奈良の歴史文化の情報発信や奈良らしい文化芸術イベントを実施し、県内外からの交流を活発にすることにより、県内の文化関連消費を高めます。
取組	「ムジークフェストなら2015」を開催しました。
成果	「ムジークフェストなら2015」では、上質な文化・芸術に触れる機会を県民に提供するとともに、地元で活躍する音楽家にも出演の機会を提供することで、県内の文化芸術活動の活性化を図りました。また、広報の充実や県民への周知が進んだことにより、来場者数が平成26年度の約83,000人から平成27年度には約107,000人に、公演数も平成26年度の270公演から304公演に増加しました。

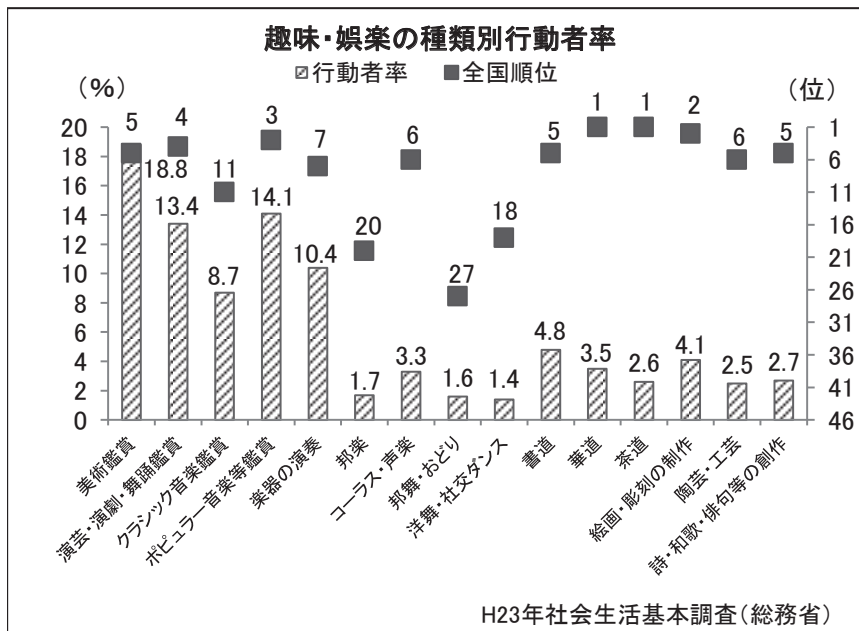
2. 現状分析



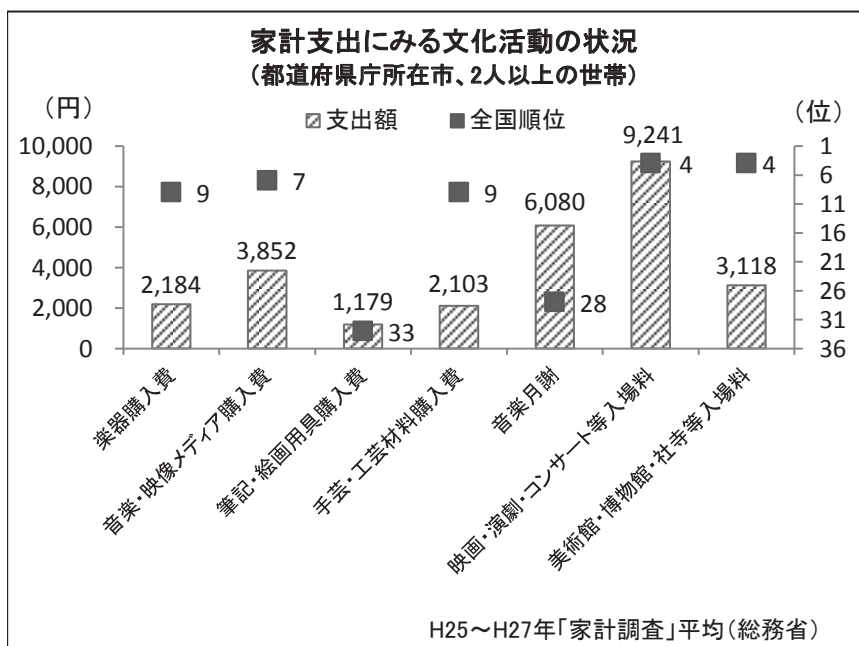
奈良県民の学習・研究の種類別行動者率を見ると、「芸術・文化」を行う県民の割合が13%であり、全国2位の高さです。



人口100万人当たりの博物館数は、15館と全国12位の高さです。



趣味・娯楽における文化芸術を行う割合は、全国に比較し高い水準です。美術鑑賞は全国5位、演芸・演劇・舞踊鑑賞は全国4位、ポピュラー音楽等鑑賞は全国3位、華道、茶道は全国1位、絵画・彫刻の制作は全国2位と、全国順位の高い分野が多くなっています。



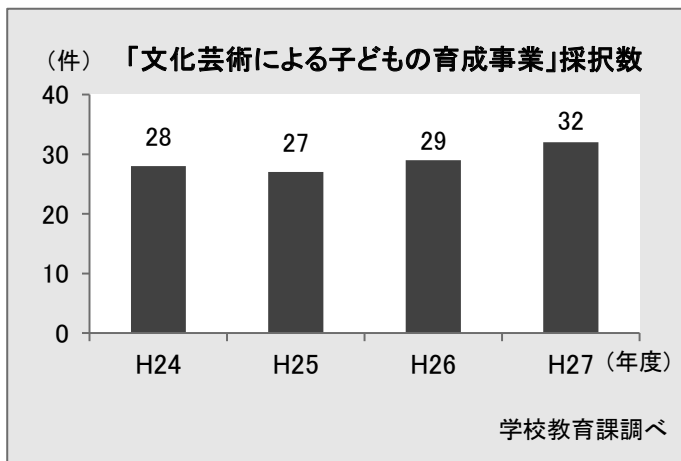
文化芸術にかかる支出額は、全国に比較し高い水準です。音楽・映像メディア購入費は全国7位、映画・演劇・コンサート等入場料及び美術館・博物館・社寺等入場料は全国4位と全国順位の高い分野が多くなっています。

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 質の高い文化芸術を活用して、奈良の文化力を向上します。

主担当課(長)名 文化振興課長 辻本 智宏

戦略目標	①伝統芸能等奈良が持っている質の高い文化資源を活用して、奈良の文化力を高めます。 ②奈良から世界で活躍するようなトップアーティストを輩出します。 ③国内外で活躍しているアーティスト等を招聘し、県内で上質な文化芸術催事を開催します。 ④有識者の講演録等県が保有する知的情報を広く県内外に発信し、奈良のステータスを高めます。
------	---



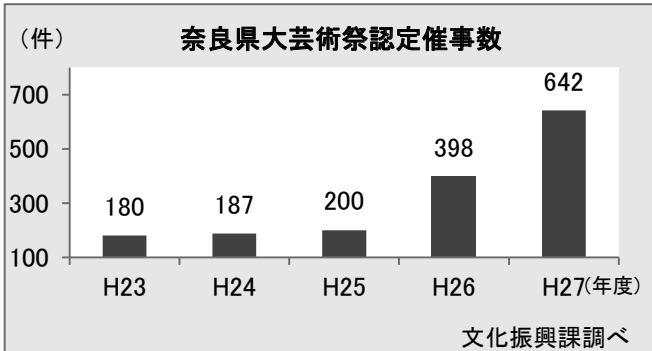
取組	上質な芸術文化に触れる機会を提供しました(①、②)
成果	奈良県大芸術祭を開催し、642催事の参加があったほか、「文化芸術による子どもの育成事業」により、県内34校の小中学生が、様々なジャンルの一流アーティストのワークショップ(実技指導)の体験及び公演の鑑賞を行い、採択数も32件と一定のレベルで推移しています。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
奈良だからこそできる音楽祭の開催(①、③)				
「ムジークフェストなら」開催市町村数(市町村)	7	8	18	文化振興課
「ムジークフェストなら」開催日数(日)	17	16	16	文化振興課
奈良の魅力高め県民の参加の拡大を図る芸術祭の開催(①)				
奈良県大芸術祭認定催事数(件)	200	398	642	国民文化祭・障害者芸術文化祭課
上質な芸術文化に触れる機会の提供(①)				
県立美術館での展覧会催事数(件)	5	4	5	文化資源活用課
県立万葉文化館での展覧会催事数(件)	6	7	6	文化資源活用課
未来のトップアーティストの育成(②)				
県立ジュニアオーケストラの公演活動数(件)	8	8	7	文化振興課
奈良県が保有する知的情報の発信(④)				
文化セミナー開催回数(回)	3	3	3	国民文化祭・障害者芸術文化祭課

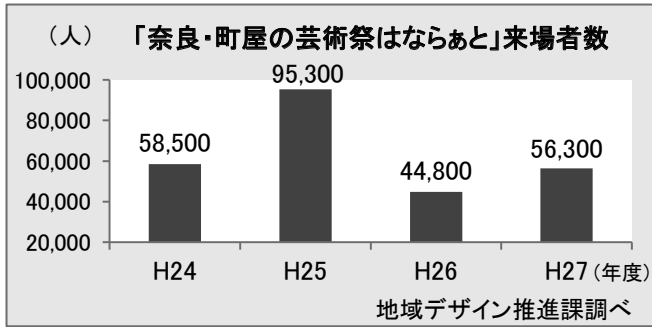
これまでの成果

- ・県立万葉文化館における特別展の開催期間の延長等を行うことにより、県民が上質な芸術文化に触れる機会の提供に努め、約10万8千人の来場がありました。(①)
- ・県立ジュニアオーケストラは、定期演奏会や「奈良県大芸術祭」「奈良の木づかいフェスタ」等で演奏活動を実施したほか、「ムジークフェストなら2015」で「ロシア・ナショナル管弦楽団」との共演も行いました。(②)

戦略目標	①文化芸術活動の活発な県として、県内外からの関心を高めます。 ②老若男女の様々な層の文化芸術活動の活発化により、県民の文化芸術に対する満足度を高めます。 ③文化芸術への参加、鑑賞の機会を拡大し、県民だれもが、県内各地で文化芸術に接する機会を創ります。
------	---



取組	「新たな文化活動チャレンジ補助金」の交付や奈良県大芸術祭での催事認定により、文化芸術団体への支援の拡充・強化を行いました(③)
成果	奈良県大芸術祭では、広報の強化等により、平成25年度の3倍以上の642催事を認定し、文化芸術に県民が接する機会を増大しました。



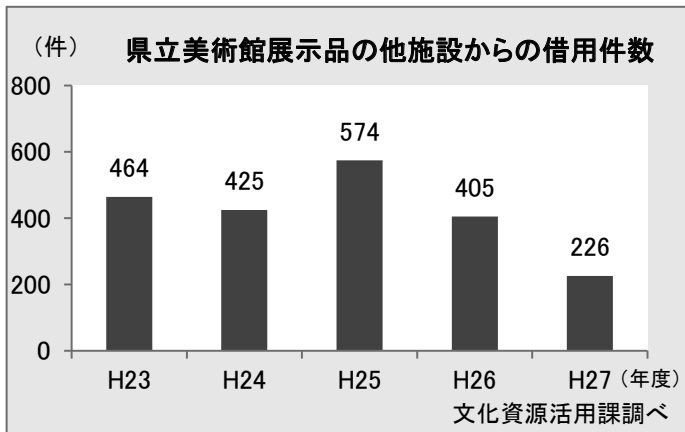
取組	「奈良・町屋の芸術祭はならあと2015」を開催しました。(①,②,③)
成果	「奈良・町屋の芸術祭はならあと2015」では、空き町屋等地域資源の活用や、地域の魅力向上を図ったことにより、平成27年度の総来場者は56,300人と、平成26年度より11,500人増加しました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
文化芸術団体や個人が行う発表の場の拡充(①,②,③)				
星空コンサート応募団体数(団体)	53	48	55	文化振興課
奈良県美術展覧会応募作品数(件)	862	895	858	国民文化祭・障害者芸術文化祭課
奈良県ジュニア美術展覧会応募作品数(件)	774	734	767	文化振興課
文化芸術団体等への支援の拡充・強化(①,②,③)				
「新たな文化活動チャレンジ補助金」新規申請数(団体)	10	16	18	国民文化祭・障害者芸術文化祭課
奈良県にゆかりのある催事後援数(件)	134	150	181	文化振興課

これまでの成果

- ・「新たな文化活動チャレンジ補助金」における奈良県大芸術祭と連動する事業に対する「重点枠」への申請は、前年度の13団体から16団体と増加しました。(①,②,③)
- ・奈良県美術展、奈良県ジュニア美術展を開催し、広く作品を公募し公表することで、美術創作活動を行う人たちの活動の機会を提供しました。(①,②,③)
- ・「奈良・町家の芸術祭はならあと」では、キュレーター(展示会場での作品・作家のコーディネート・作品配置、展示に関わる提案者・責任者)の活動分野を美術・音楽・デザイン・演劇と多岐にわたり広げました。また、制作期間を半年とし、キュレーターが地域をリサーチし、地元住民と交流する時間を十分確保したことにより、地域や会場となる建物の特性を重視した作品を展開しました。(①,②,③)

戦略目標	①県内文化施設が有機的に連携するとともに、新たなイベントにより、地域のにぎわい拠点とします。 ②県内の社寺等をはじめ、地域の文化観光資源を活用した新しい文化芸術活動等により地域の文化価値を高めます。 ③地域の文化芸術活動を促進し、各地域を元気にする文化芸術活動のリーダーを育成します。 ④奈良の歴史展示を推進することにより、奈良の歴史の魅力や文化の背景をわかりやすく伝えます。 ⑤県内の古文書等を調査、整理し、広く県内外に公開することにより、奈良の歴史的価値を高めます。
------	---



取組	文化施設等の連携の強化として、県立美術館、県立万葉文化館での展覧会で他施設等の美術品等を展示しました。また、文化芸術活動促進を図るため、民間団体等との連携を図りました。(①,③)
成果	県立美術館では、館蔵品を多く展示したことから借用件数は減少しているものの、見ていただきたいポイントを簡潔に記したナビゲーションパネル「せんとかんナビ」や大きな文字の解説板を設置する等、鑑賞者の目線でわかりやすく見やすい展示解説の工夫を行いました。また、地域の文化芸術活動の促進を図るため、民間団体等との連携パネル展示や講演会を開催しました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
県内文化施設が核となり、地域のにぎわいを創出(①)				
県立文化施設の来場者数(人)	1,318,106	1,354,748	1,297,605	文化資源活用課
文化財を活用したまちづくりの支援(②,④)				
地域の歴史文化資源を活用した取組事業の採択数(件)	14	8	13	文化資源活用課
文化施設等の連携の強化(①,④)				
県立美術館、県立万葉文化館展示品の他施設からの借用件数(件)	799	667	466	文化資源活用課
奈良らしい歴史展示の推進(②,④)				
現地解説Q&A解説板設置件数(件)[累計]	—	15	25	文化資源活用課
県内古文書(庁中漫録)の翻刻、公開等及び人材養成の実施(⑤)				
難解で貴重な古文書を読むことができる人材の育成者数(人)	—	55	78	文化資源活用課

これまでの成果

- ・文化・芸術の振興に関する総合的・戦略的な施策を推進するため、平成28年3月に奈良県文化振興有識者会議を設置しました。また、地域が大切にしたい歴史文化資源を網羅し、県が歴史文化資源活用施策の基とするデータベース構築の考え方を整理しました。(②,④)
- ・県の文化施設では、展覧会の内容をより深く理解できるよう展覧会に関連した講座や講演会等を開催し、平成27年度は県立美術館で170件、橿原考古学研究所附属博物館で34件開催しました。また、図書館では、奈良県の歴史と文化の伝承と創造の発信メディアとして、さまざまなイベントを実施し、年間約54万7千人が来場しました。(①,④)
- ・「日本書紀」編纂1300年の節目の年である平成32年に「出雲と大和」をテーマにした展覧会を共同開催するため、平成27年8月に島根県と覚書を調印しました。また古代文化遺産の豊富な14県で構成する協議会において、「古墳時代の玉類」についての共同研究を行いました。(④)

4. 平成29年度に向けた課題の明確化

<政策目標達成に向けた進捗状況>

- ・「新たな文化活動チャレンジ補助金事業」について、同事業が徐々に浸透したことにより、応募団体数は44団体と平成26年度に比べ増加しました。
- ・県立美術館展覧会事業、県立万葉文化館展覧会開催事業を実施し、美術館では特別展をはじめとする展覧会に約71,000人、万葉文化館では季節ごとに開催される「にぎわいフェスタ万葉」に約27,000人が来場し、地域のにぎわいを創出しました。
- ・「ムジークフェストなら2015」を開催し、県内の文化芸術活動の活性化を図りました。また、広報の充実や県民への周知が進んだことより、来場者数が平成26年度の約83,000人から平成27年度には約107,000人に、公演数も平成26年度の270公演から304公演に増加しました。

<戦略目標達成に向けた進捗状況>

- ・「文化芸術による子どもの育成事業」により、県内34校の小中学生が、様々なジャンルのワークショップの体験及び公演の鑑賞を行い、採択件数も32件と一定のレベルで推移しています。
- ・奈良県大芸術祭を開催し、広報の強化等により、642催事の参加がありました。
- ・「奈良・町屋の芸術祭はならあと2015」では、空き町屋等地域資源の活用を図ったこと等により、平成27年度の総来場者は56,300人と、平成26年度より11,500人増加しました。
- ・県立美術館では、鑑賞者の目線で分かりやすく見やすい展示解説の工夫を行いました。また、民間団体等との連携パネル展示や講演会を開催しました。

<奈良県への追い風>

- a 景気回復による文化関連消費の増加への期待
- b 歴史的な町並み等の文化的景観が多くの人に見直されつつある
- c 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催
- d 2017年に奈良県で国民文化祭開催
- e 国による地方創生の推進

<奈良県への向かい風>

- f 著名なアーティストや作品は大都市での公演、展示に集中する傾向

<奈良県の持っている強み>

- 1 学習・研究で「芸術・文化」を行う県民の割合が13%で、全国2位
- 2 趣味・娯楽で芸術鑑賞・文化芸術を行う県民の割合が全国的に見て高い分野が多い
- 3 文化活動に関する家計支出額が全国的に見て比較的高い水準
- 4 人口100万人当たりの博物館数が全国12位
- 5 3つの世界遺産をはじめとして文化遺産が豊富
- 6 コンサート等を開催できる世界遺産が所在(東大寺、薬師寺等)
- 7 能楽の発祥地
- 8 数多く残されている歴史的な町並み等の文化的景観
- 9 文化資源活用課を設置し、文化資源の利活用を積極的に行う体制を整備

<奈良県の抱えている弱み>

- 10 多くの観客を収容できる施設が少なく、トップアーティストの招聘が困難
- 11 文化活動発表の場が少なく、アーティストは県外に活動拠点を求める傾向
- 12 県立の文化施設が老朽化

<強みで追い風を活かす課題>

【重要課題】上質な文化芸術に触れる機会の創出(2,3,7,a)

【重要課題】歴史文化資源の活用(1,3,4,5,6,8,9,a,b,e)

【重要課題】奈良の仏像海外展示の推進(5,9,c,e)

- ・県内の文化施設が核となり、地域のにぎわいを創出(1,2,3,4,a,c)
- ・奈良らしい歴史展示の推進(5,9,e)
- ・未来のトップアーティスト育成(1,3,a,d)
- ・文化的景観を活かした文化芸術活動の展開(6,8,a,b,d)
- ・歴史文化資源データベースの構築(1,4,5,9,a,b)
- ・記紀・万葉プロジェクトの推進(1,3,4,5,9,a,b,e)

<強みで向かい風を克服する課題>

- ・文化芸術団体への支援の拡充・強化(2,3,f)
- ・奈良らしい音楽祭の開催(2,3,6,f)

<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>

【重要課題】文化芸術団体が行う発表の場の拡充(11,12,a,e)

- ・県立美術館、県立万葉文化館における展示方法の工夫(11,12,a)

<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>

- ・県立文化施設の整備・改修等(10,12,f)

5. 平成26年度の評価を踏まえ、平成28年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
上質な文化芸術に触れる機会の創出(戦略1)	「ムジークフェストなら2015」に参加した県民の年齢層が偏っていたことを踏まえ、「ムジークフェストなら2016」において、若者向けコンサートや親子向けコンサート等、幅広い世代に楽しんでもらえる内容を取り入れました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
上質な文化芸術に触れる機会の創出(戦略1)	奈良県大芸術祭や、「ムジークフェストなら」、平成29年度に開催する「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」等の県主催イベントの増加や、幅広い年齢層に参加してもらえる公演の実施、また県立文化施設においても魅力的な催しを実施します。
歴史文化資源の活用(戦略3)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化資源が豊富にある本県の強みを活かした文化振興施策を戦略的に展開していくために、「奈良県文化振興大綱」を策定し、施策の対象を文化財だけでなく歴史文化資源に広げ、施策の重点についても「保存」にとどまらず、観光客の誘致促進や地域の活性化などにつなげるべく「活用」にも置いていきます。 ・「文化財」の「保存・修復」と「文化財」を含む「歴史文化資源」の「活用」に係る施策を総合的・一体的に展開する拠点として、奈良県版の国際芸術家村整備を検討します。
奈良の仏像海外展示の推進(戦略3)	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、日本文化発信の一環として、奈良のトップクラスの仏像等を欧州の著名な美術館に展示する企画を進めます。奈良の魅力を海外に発信し、欧州からの訪日客の増加につなげ、観光振興や地元産品の海外展開に最大限活用していきます。
弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
文化芸術団体等が行う発表の場の拡充(戦略2)	奈良県大芸術祭や、「ムジークフェストなら」等における発表機会を増やすため、会場数や開催地域の拡大を図ります。

